

古寛永通宝 松本銭について（補遺2）

『松本城下町跡本町第八次発掘調査』で

出土した寛永銭について

漾泉 嵯峨裕之

1 はじめに

今年の『収集』四月号に、「古寛永通宝 松本銭について（補遺）」松本で「斜寶」類の鑄放し銭や坩堝の破片が出土」というタイトルで、地元紙で「斜寶」類の鑄放し銭や坩堝の破片の出土が報じられたことについて、紹介させていただきました。

その後、松本市教育委員会 文化財課の竹内靖長さんに、新聞に使用された「未成品」（古泉界で言うところの「鑄放し銭」とされる寛永銭九孔の写真と拓図を拝見させていただいたうえ、他日文化財課において、出土銭の現物を手に取って拝見させていただきます。

さらに、刊行された、「松本城下町跡 本町 第八次発掘調査報告書」（以下「報告書」と省略します）もいただき、拓図を引用する許可もいただきました。竹内靖長さんはじめ松本市教育委員会文化財課の原田健

司さん、小山奈津実さんにこの場をお借りして厚くお礼申し上げます。

また、「報告書」の拓図を赫璋 松本裕之さんに見ていただいて、私の分類に間違いがないか確認していただき、また私が分類できなかったものについて教えていただきました。松本裕之さんにこの場をお借りして厚くお礼申し上げます。

2 発掘場所について

信濃毎日新聞松本本社新社屋の移転新築に伴い、平成二十七年八月三日から平成二八年九月一三日まで松本市中央一丁目において発掘調査が行われました（図1）。

発掘場所は古地図により、敷地の南半分に御使者宿（幕府や藩外からの使者を泊めたり、使者や飛脚によって運ばれてきた文書を藩の役人等へ取り次いだりする役所）があったことがわかっています。

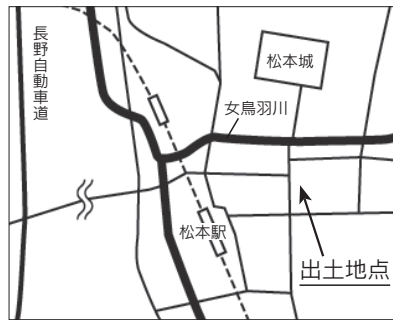


図1 出土場所

発掘場所は、戦国時代から近代まで四回以上整地（他の場所から土砂を運び込んで盛土を行う）が行われており、寛永銭や坩堝などはそのうちの一七世紀後半～一八世紀後半及び一七世紀中頃～一八世紀前半の整地層から出土しました。このことから、発掘場所からそう遠くない場所にあった銭座跡から土砂が運び込まれ、盛土に使用されたものと考えられています。

「報告書」によると吉野ヶ里公園

マネジメント共同企業体・吉野ヶ里公園管理センター歴史専門員の梅崎恵司先生が平成三〇年一月に出土資料を調査され、鑄銭に使用したものと判定されました。

鑄造関連の出土品は、貨幣（後述）、砲弾型坩堝片、サヤ（坩堝の温度を下げないように使用した小型炉の一部）、鋳滓（スラグ）などでした。

この他、砥石、取鍋（とりべ）なども出土しましたが、鑄銭に使用されたものではないそうです。

3 出土銭のついで

出土銭の内訳は、古寛永銭二七孔（表1）、新寛永銭二四孔（表2）、その他の三〇孔でした。

その他の三〇孔についての詳細は省略しますが、大半は北宋銭を主体とする中国銭で、最も古いものが唐の開通元寶（開元通寶）で、最も新しいものは明の永樂通寶でした。な

表1 出土した古寛永銭の内訳

鑄銭開始年	鑄地	分類名	数量	備考
寛永 13	称 江戸浅草	御藏銭 正字	2	
	称 江戸芝	不草点 細字	1	
	称 近江坂本	高頭通	1	
寛永 14	称 常陸水戸	湾柱永	1	未成品とされるもの
		勁永	1	
		勁永 平永	1	
	称 陸奥仙台	跋寶 降通	1	未成品とされるもの
	信濃松本 (称 豊後竹田)	斜寶 (本体)	4	うち2孔未成品とされるもの
		斜寶 (本体) 平永	1	
		斜寶 縮寶	5	うち3孔未成品とされるもの
斜寶 高寛		1	未成品とされるもの	
	斜寶類	1	未成品とされるもの	
寛永 14?	不知銭	降寶	1	
承応 2	称 京都建仁寺	小字	1	
明暦 2	称 駿河沓谷	大字	1	
		正足寶	1	
	称 江戸浅草鳥越	高寛	3	
合計			27	

表2 出土した新寛永銭の内訳

鑄期	鑄地	分類名	数量	備考
寛文期	江戸亀戸	中字背文	1	俗称 文銭
		細字背狭文	1	
		細字背小文	1	
		縮字刳輪 (広文)	1	
延宝期		細字小文無背	1	俗称 文銭無背
元禄期	京都七条	草点永進永	1	俗称 萩原銭
宝永期	江戸亀戸	広永	1	俗称 四つ宝銭
		勁永	4	
		勁永広寛	6	
		跳永	1	
		俯頭彘	1	
享保期	旧 江戸深川十万坪	小目寶	3	俗称 不旧手
	旧 江戸猿江銭	正字	1	
明和期	江戸深川千田新田	俯永	1	俗称 青銭 (四文銭)
合計			24	

また、Aの「斜寶縮寶」銭は刳輪されていないため、潤縁となっており、最大外径が二七ミリ（鑄バリ部分を含む）もあり、Bの「斜寶高寛」銭も最大外径が二六・三ミリ（鑄バリ部分を含む）もあるようです。「斜寶縮寶」の潤縁大様銭や「斜寶高寛」の大様銭は、かなりの稀少品ではないかと思えます。

なお「報告書」で「未成品」とされるものの中に、称仙台銭の「跋寶降通」や称水戸銭の「湾柱永」が含まれ

お、日本鑄かどうかはわかりませんが、拓図より見て仿鑄銭と思われるものも含まれているようでした。

古寛永銭二七孔のうち九孔は梅崎先生によって「未成品」と判定されました。

また、特筆すべきと思われるのは、古寛永銭三四孔のうち「斜寶」は一孔のみであったことを考える

出土した古寛永銭の半数に近い一二孔が「斜寶」銭であったことです。出土銭の拓図が全て掲載されている「松本城下町跡 東町 第三次発掘調査報告書」と比較し、東町では出土した古寛永銭三四孔のうち「斜寶」

と、非常に高い割合で「斜寶」銭が含まれていることがわかります。そのため、他の発掘状況のデータを詳しく調べる必要があるものの、本町で出土した「斜寶」銭は完成品についても銭座跡から運び込まれた盛土由来のものであった可能性があるのではないかと考えられました。

新聞に拡大写真が掲載された、鑄放し銭三孔の拓図をお示ししますが

(次頁図2)、図中AとCを「斜寶縮寶」、Bを「斜寶高寛」と判定しました。Cは、新聞の画像から、「斜寶深冠」ではないかと前回報告しましたが、松本さんに拓図を見ていただいたところ、「斜寶縮寶」ということでした。私の判定が間違っていましたので、訂正してお詫びいたします。「斜寶深冠」の出土は今回はありませんでした。